

平成17年度北の国・森林づくり技術交流発表会に参加

～17年間の堅果（どんぐり）結実調査について発表～

1月26日（木）に『平成17年度北の国・森林づくり技術交流発表会』が札幌の北海道森林管理局で開催されました。この発表会は、北海道森林管理局主催で行われたもので、国有林、北海道、高校の他、国有林をフィールドに活動しているNPOやボランティア団体等により、それぞれの業務研究、活動成果が発表されました。

今回知床森林センターでは、平成元年より毎年行っているミズナラの堅果（どんぐり）結実調査について過去17年間に蓄積したデータを基に発表しました。その主な内容は、前号で報告した年毎の個数・重量の変動の他、採取場所による比較、個体別胸高直径と個数との関係等です。また、昨年秋に話題となったどんぐりの豊凶が熊の行動に与える影響についても触れ、知床ではどんぐりの豊凶と熊の目撃数とは必ずしも相関しておらず、このことは知床ではどんぐり以外にも同じ時期に川を遡上してくるサケ科魚類などの他の餌が豊富であることが関係しているのでは、と考察しました。

発表会では、他に各団体の森林ふれあい活動の紹介やGPSでの測量、鹿の食害防除策の報告、ボランティア活動についての発表などがあり、当センターの活動に参考となるものも多く、とても勉強になりました。これからも、森林をフィールドに活動している関係者同士交流を深め、色々なことを吸収していき技術を向上させていく必要があると感じました。



年別堅果個数と斜里町での熊目撃件数の関係

所内勉強会を開催

～網走東部森づくりセンター職員の方々を招いて実施～

職員の資質向上を目的に毎年行われている所内勉強会。今回は2月24日（金）に北海道網走東部森づくりセンターの職員の方を招いて実施しました。



勉強会の様子

当日は管理課の空主幹、高橋主査（森林活用）、高橋主査（森林機能）の3名に来所頂き、森づくりセンターにおける指導普及活動の概要を伺いました。同じオホーツク圏で活動しているものの、私たちは知床国有林を、片や北見周辺の道有林を主なフィールドとしているため、普段は殆ど交流が無く、そのためパワーポイントを用いて説明された森づくりセンターの概要や、森林環境教育、道民参加の森林づくりといった取組みは興味深く職員は真剣に聞き入っていました。

特に大学も含む教育機関と連携した取り組みが多い印象を受け、センター職員も刺激を受けた様子でした。



(写真：フレペのエゾシカ)

北海道森林管理局 知床森林センター

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160

ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp/>



知床は今

知床の海岸に油にまみれた海鳥の死骸が大量に漂着したと報道は皆さんもご存じかと思います。実際私たちもウトロの現場へ行く途中、マスコミや関係者が海岸沿いで漂着した海鳥を探しているのを見かけました。

そのような中、3月6日（月）に関係行政機関による油汚染漂着海鳥回収作業が行われることとなり、当センターからも3名が参加しました。当日は総勢80名程の関係者がグループに分かれ、オクシベツ川河口～イワウベツ川河口の40%に渡り回収作業を行いました。現地は雪がうっすらと積もり、死骸は雪に隠れていたり、岩の間に挟まっていたりすることから探し出すのも大変で、また、漂着ゴミの中に埋もれていたり、漂着した網に絡まっているものがあることから回収も一苦労でした。回収した海鳥の死骸は翼部分や胴体、頭部がバラバラになったものがほとんどで、死骸には粘り気の強い黒い油が付着しており、石油のような匂いがしました。死骸を探して回収する作業は大変で地道な作業ですが参加者は休むことなく真剣に作業に取り組んでいました。今回は1,698羽回収し、それまでの回収分を加えると1,888羽回収したそうです。



回収風景（ホロベツ川河口）



油にまみれた海鳥の死骸

テレビ等を通じてニュースとして見ていると、なにか遠くで起こっていることのように思えますが、実際に現場へ行き回収作業に参加することによって、この問題が知床という現場で起きていることを身をもって実感しました。世界自然遺産でも認められた海と山の生態系が関わり合う知床の価値を守るためにも、今回の原因の早期解明が求められるとともに、二次被害防止のため出来る限りの協力をしていきたいと考えています。

第61回森とのふれあい

『流水押し寄せる海岸林を突き進もう』を開催

～歩くスキーで斜里の小学生と海岸林を探索～



説明を聞いている様子

タイトルにもあるとおり、いつもなら海一面に流水が見られますが、今年は暖冬の影響か流水は沖の方にほんの少し見えるだけでした。

海一面の流水は見られませんでした。参加者の子供達は動物の足跡をあちらこちらに見ついたり、ミドリシジミという蝶の卵を探したり、帰りには網走・斜里間を走るノロッコ号も見られとても楽しんでいました。

第61回森とのふれあい『流水押し寄せる海岸林を突き進もう』を2月18日(土)に斜里町内の小学生対象に斜里町博物館と共催で実施しました。

当日は快晴無風のベストコンディションの中、歩くスキーで大栄の海岸林を歩きました。

イベントの内容は、海岸林の役割や個々の木の説明、マツボックリやツルについての解説・足跡の特徴で動物を当てたりということを行い、子供達は熱心に聞き入っている様子でした。



ノロッコ号に手を振りました

新ホームページ閲覧者1万人達成!

昨年11月にリニューアルしたホームページですが、3月5日に閲覧者が1万人を達成しました。ホームページ上では知床のライブカメラやイベント情報・知床の風景や動物の写真、樹木図鑑を掲載しているほか、ブログで知床の最新情報を発信していますので、これからも宜しくお願いします。

知床森林センターホームページアドレス <http://www.shiretoko.go.jp>

「ガイド講習会」に出席

～知床の気象などについて学ぶ～

1月18日(水)に、斜里町のゆめホールで、知床エコツーリズム推進協議会主催の『ガイド講習会』が開かれ、センターからも5名が出席しました。午前、網走地方気象台の三浦明さんによる「知床の気象」について、午後は知床博物館の合地信生さんによる「知床の地質」についての講義を受けました。内容は、天候の急変が多い知床の気象特性や、火山活動により形成された知床半島の地形、地質の特徴などでした。このような専門的な講義で得たことを森林の説明と組み合わせることで、参加者の関心を高め、深みのある説明が出来るよう、今後のイベントで役立てていきたいです。

第76回森林レクリエーションin知床

「海一面の流水! エゾシカ集うフレベの森を散策しよう」を開催しました

昨年12月の豪雪からはうってかわって、2月に入ってから知床でまとまった雪はほとんど無く、特に中旬以降は季節はずれの暖気で雪融けが一気に進み、融けて凍ってを繰り返したため、雪原もかなり固くなってしまいました。そのため今回のイベントでは歩くスキーの使用は困難とされていました。イベント前日の夕方より降りつづいた雪で、なかなか良いコンディションで当日を迎えることが出来ました。ということで、3月2日(木)に、50~60代を中心とした男女19名参加の下、標記イベントを実施しました。



みなさん真剣に説明を聞いています

当日9時半ごろ斜里を出発した一行は、バスの中でセンター職員より知床の森林の特徴や世界自然遺産の概要、森林が果たす役割といったレクチャーを受けた後、午前10時半ごろ、知床自然センターより横断道路沿いに少し下がったところから歩くスキーをスタートしました。

開拓跡地の二次林を見学した後、フレベの滝を経て、原生的な森林環境が残るエリアへと足を踏み入れました。開拓跡地に出来た若い森林と、大木が鬱蒼と広がる森林。フレベの滝周辺の森林は対照的ですが、そのどちらも知床の歴史を物語る森林の姿です。樹齢数百年にも及ぶであろう大木やこれから大きくなる若木で構成された森林の中に身を置いた参加者の皆さんは長い時間をかけて発達する森林の成り立ちに思いを馳せて頂いた様子でした。

コースの前半では、冬でも枯れ葉を落とさないカシワの木や野鳥の餌となるハリギリの実を観察し、後半では、トドマツの幹に残るヒグマの爪痕や、クマゲラの食痕等、森林の中で生育する野生動物の息吹を感じて頂きました。特にエゾシカはコースを通じて何度も間近で観察することが出来、その姿に参加者の皆さんから驚嘆の声が漏れていました。しかし、その一方、至る所で確認できたシカによる樹皮はぎも、知床のおかれている現状を現す一面であり、特定の種に被害が集中して地域的な絶滅も懸念されること等を説明し、知床が抱える課題も認識して頂きました。



フレベの滝で記念撮影をしました

当日は小雪がちらつく曇天模様で、残念ながら知床連山などの景色は望めず、また、流水も沖合に去っていましたが、風は弱くそれほど気温も下がらなかったため快適に歩くスキーでの森林散策を楽しむことが出来ました。フレベの滝では、「カポッカポッ」と鳴くワタリガラスに出会うことも出来、夏とは違う知床の魅力を満足して頂きました。ちなみに前述の通り今年は雪融けが早く、ヒグマの目覚めも早いようです。

幸い今イベントでその姿を見ることはありませんでしたが、数日後にはフレベの滝周辺で目撃されたとのこと。例年より1ヶ月は早い出沒ですが、これから知床を訪れる方は十分気を付けて下さい。

※: 災害や人為により森林が消失した後に発達した森。裸地に優占して生えるカンパ類などで構成される。

～知床と知床森林センターの歴史～

○昭和63年3月1日 知床森林センター設置

斜里営林署を廃止、清里営林署への統合に伴い知床森林センターを新設。設立当時は、所長、所長補佐、技術専門官、企画係、業務係の9名体制で構成されていました。

○昭和63年9月 広報紙「知床の森から」第1号を発行

知床森林センターの活動状況を知っていただくため独自の広報紙の発行を始めました。

○平成2年1月 知床森林センター及び斜里営林事務所庁舎落成

清里営林署（現網走南部森林管理署）斜里営林事務所の庁舎の一部に所長室、事務室、展示室を設けています。



○平成2年4月25日 知床森林生態系保護地域を設定

網走地域施業計画及び根釧地域施業計画の変更により、知床横断道路以東の約3万6千haが「知床森林生態系保護地域」に指定されました。このエリアでは、原則人手を加えず自然の推移に委ねる「保存地区」と緩衝地帯としての「保全利用地区」により、原生的な森林環境が守られるよう取扱われています。

○平成2年11月29日 知床自然観察教育林を設定

知床横断道路沿いに位置し、知床森林生態系保護地域に隣接した清里営林署（現網走南部森林管理署）管内317林班～319林班（現1317～1319林班）にレクリエーションの森として「知床自然観察教育林」が382ha設定されました。エリア内には知床を代表する針広混交林が広がり、ミズナラの大木や雪融け水で出来た「ボンホロ沼」、幌別川沿いの滝など見どころが豊富なことから、森林環境教育等に活用されています。

○平成8年5月11日 一般会計に移替

国民参加の森林づくりの促進を一般林政上の業務として行う必要から内部組織の再編が行われ一般会計に移替されました。体制も所長、企画官、総務係長、緑化第一係、緑化第二係に変更されました。

○平成10年8月 インターネットHPの開設

インターネット上にホームページを開設し、よりタイムリーで広範囲な情報提供に取り組んでいます。

○平成13年4月 知床半島緑の回廊設定

野生生物の移動経路を確保し、生息・生育地の拡大と相互交流を促すことを目的に、網走南部森林管理署、根釧東部森林管理署管内に長さ約48km、面積約1万6千haを設定しました。

○平成13年8月 森林環境情報システムの導入

以久科、峰浜、ウトロの3箇所にカメラを設置し、知床連山などの様子を画像データとして映像情報をホームページに掲載しています。庁舎内の展示室では、カメラの操作も可能となっています。

○平成16年4月1日 知床森林生態系保護地域の拡大

知床横断道路以西、遠音別岳周辺まで拡大され、面積は約1.3倍の約4万6千haとなりました。それに伴い、緑の回廊は長さ約36km、面積約1万3千haとなりました。

○平成17年7月14日 知床の世界自然遺産への登録が決定

海域を含む知床半島7万1千haが知床世界自然遺産に登録されました。

○平成18年3月

広報紙「知床の森から」が通算100号を迎えました。



森林生態系保護地域と緑の回廊の位置



(写真：知床連山)

知床森林センター広報紙発行100号にあたり

北海道森林管理局長 亀井 俊水

昨年7月、世界自然遺産に登録され注目を集める知床は、原生的で鬱蒼とした森林環境が残ることから容易には人を寄せ付けない地域でもありますが、ヒグマを始めとした多くの野生生物を育む森林は多くの人を魅了しています。そのため知床の自然情報に対するニーズは非常に高いものがあると感じています。

知床半島の大半、特に世界自然遺産区域の陸域95%を国有林として所管している林野庁・北海道森林管理局では、そのようなニーズに応えるべく知床森林センターの諸活動を始めとして、様々な情報発信に取り組んでいます。

昭和63年に斜里町に知床森林センターを設置して以来、発行を続けるこの広報紙は、センターの活動紹介を始め、知床で起きている出来事を定期的に紹介する媒体として、遠方に住む方にも「地の果て」知床を身近に感じて頂けるような存在として認知されているものと考えています。

昨今のインターネットの普及により、情報入手手段の多様化も進んでいますが、今後とも気軽に手軽に読める広報紙の発行を通じ、一人でも多くの方に知床の森林の魅力と遺産の価値を紹介してきたいと考えています。今後とも引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

広報紙を振り返って



昭和63年のセンター設置以来発行を続けている「知床の森から」。当初は不定期の発行でしたが、現在は隔月で皆様に知床の情報をお届けしています。今回は過去の記事を振り返り主な出来事をピックアップしてみました。

○昭和63年9月 第1号

記念すべき広報紙第1号は、伐採跡地に営巣したクマゲラの雛3羽が無事に巣立つことができた事と伐採前に心配されていた野鳥や動物達への影響がほとんどみられなかった事がトップ記事として掲載されていました。



○昭和63年10月 第2号

森林センターの初イベントは知床硫黄山新噴火口への登山でした。参加者の皆さんは噴火口から吹き上げる蒸気や荒涼とした自然景観に感動し、また必ず参加させて下さいと御礼の言葉があり、初めてのイベントだけに職員もホッとしたようです。知床硫黄山新噴火口へのイベントは人気イベントとなり毎回多くの申込があります。(※現在は道道工事中のため実施していません。)

○平成元年3月 第3号

森林センターに親しみをもって戴くため、クマゲラをモチーフにしたアイドルキャラクターが登場し、名前を募集しました。後日、キャラクターの名前は「ゲラちゃん」に決定しました。



○平成2年3月 第7号

この年に知床森林センターと斜里営林事務所の新庁舎が完成しました。新庁舎は北見地方の木材を使用しており、外装と構造材にエゾマツ・トドマツ・カラマツ、内装材としてミズナラ・セン・ニレなどを使用し、木材を豊富に使用したログハウス風の庁舎となっています。完成当初の外観は素材を活かした明るい色合いでしたが、平成13年に塗装の塗替えが行われ、現在はこげ茶色の落ち着いた雰囲気となっています。

○平成8年4月 第42号

エゾシカによる農林業への被害は現在全道的な問題となっていますが、広報紙ではこの号で初めてエゾシカによる樹皮食害を掲載しています。知床森林センターでは、この翌年よりイチイ遺伝子保存林を試験地とした樹皮食害調査を始めていますが、当初、イチイ全体の約5割に認められていた食害が、現在9割を超えるまでになるなど、エゾシカの猛威は止まるどころを知らません。網巻きなどの防除策を講じているものの、根本的な解決にはなっていない状況です。



○平成10年10月 第57号

森林・林業・国有林野について広く知って戴く事を目的に、知床森林センターのホームページが開設されました。平成13年には知床連山などの様子が自宅にいなから画像で見られる「森林環境情報システム」を導入、平成17年11月にはデザインを一新し、ブログも盛り込むなど内容の一層の充実を図り、身近な知床の自然の様子や出来事などを発信し、今年3月現在で累計約20万アクセスを記録しています

○平成17年7月 第96号

7月にアフリカのダーバンで開催された世界遺産委員会で「知床」が世界自然遺産に登録される事が決定しました。「知床の森から」ではこの前後に起きた遺産推薦・登録にかかる様々な出来事(関係省庁連絡会議の決定事項やIUCN調査等)を報告してきました。これからも知床の自然の魅力を伝えると共に、遺産の価値を後世に引き継ぐための取り組みについて皆様にお伝えしたいと思います。



歴代所長から一言 (括弧内はセンター在職期間)

◎小合 信也(S63.3.1~H2.7.31)

皆初めての事で、職員みんなの手作りで始まりました。生態系保護地域設定、イベント実施、広報紙発行、知床森林センター独自の調査・研究、庁舎新築等少しずつ形が整って行きました。斜里町をはじめとする地域の方々の御理解と御協力、営林支局等関係機関の御支援及び職員の創意工夫並びに知床の豊かな自然があってこそその成果でした。「知床の森から」も100号、知床森林センターの今後益々の御活躍・御発展をお祈りします。

◎馬淵 征雄(H2.8.1~H5.5.31)

「知床の森から」100号の記念号発行お祝い申し上げます。自然の移ろいは緩やかであり、人々は時にはその変化を見失いがちです。この「知床の森から」は、知床の自然を観察し、その時々における人々との関わりを記録しつづけてきた意味において重要な資料となっていることは間違いありません。世界自然遺産に登録された知床にあって、今後もこの「知床の森から」が、知床における「自然」と「知床を利用する」ことに関わる情報の発信源として、また「自然の解説者」としてセンターの益々の活躍を祈念しております。

◎畑 隆雄(H5.6.1~H7.2.28)

「知床の森から」100号達成おめでとうございます。私が在職していた知床森林センターは、先達の努力によりレールは敷かれていました。特にその中で、知床という広く、深く、魅力のあるフィールドをできるだけ多くの方々に体感していただきたく、四季折々の企画に知恵を出し合い、最後に聞くありがとうの言葉を次へのエネルギーとしていました。また、イベントの参加者が1,000名を突破した時期でもあり、記念品を贈らせていただき喜んでくれたことが思い出されます。知床が世界から注目されることになり、より実績のある広報紙として発展されることを願っています。

◎太田 賢司(H7.3.1~H8.11.30)

「知床の森」100号記念誌におめでとうございます。在任中に一般会計へ移替えになり、それまで以上に地域社会との連携強化に取り組みました。イベントの開催に当たっては、参加者からの質問に対応すべく勉強の連続でした。特に下層植生(草花)については、暇を見ては本を片手に以久科海岸や知床の山々を歩き頭に詰め込んだものです。そのお陰で、今でも聞かれればある程度は説明できるようになっています。今後とも、「知床の森」が四季折々の情報紙として日本各地に発信されるとともに、皆様のご活躍を期待しています。

◎須合 賢(H8.12.1~H11.7.31)

平成8年から約3年間お世話になりましたが、この間、職員の皆様と、知床半島羅臼湖までの森林教室コースの設定や、森とのふれあいが出来る「植樹と炭焼き体験」等の体験林業を取り入れました。この中で、初めて取り組んだ「炭焼き」についてははだれも知識はなく、文献を調べたり近隣の炭焼きを見学を行って、初めての炭焼きに取り組んだ時には見事失敗で、炭どころか灰になってしまったりなど、悪戦苦闘したことが記憶に残るところです。

◎都留 浩明(H11.8.1~H14.7.31)

「知床の森から」100号達成おめでとうございます。私は平成11年8月から14年7月までお世話になりました。一年を通じて知床の大自然を満喫しました。特に冬はいいですね。「トウツルトウ」周辺の歩くスキーコースを開拓したり、以久科海岸で流氷に乗り、峰浜の町営スキー場に通ったり。また、フレベの滝付近で撮ったキタキツネの写真はお気に入りです。これからも知床のすばらしさを捜し、発信し続けて下さい。

◎西 純一郎(H14.8.1~H17.3.31)

2年8ヶ月過ぎた知床の地を離れて、まもなく1年が過ぎようとしています。世界自然遺産への登録に、微力ながら携わることができたことは大変光栄に思っています。この間、森林生態系保護地域の拡充、世界自然遺産管理計画の策定、知床ルールの検討など、多くの難課題がありましたが、地元斜里町、羅臼町の皆さんをはじめとする関係各位のご支援、ご協力を賜り、何とか先を進めることができました。誠にありがとうございました。